

5 持続可能な社会の構築に向けた地域づくり・人づくり

5-1 多様な環境教育・環境学習の推進

1 環境教育の推進体制(森林環境総務課)

(1) やまなし環境教育等推進行動計画

環境教育の果たす役割がますます重要になっていることから、平成21年3月に策定した「やまなし環境教育等実践指針」を見直し、新たに「やまなし環境教育等推進行動計画」を平成25年3月に策定しました。

計画では、県民や学校、民間団体、事業者が様々な環境保全活動を活発に展開できるよう、各主体の役割に応じ、様々な場における環境教育に関する具体的な取り組みを体系的に分かりやすく整理することにより、効果的な環境教育の実践に資するよう配慮しました。

(2) 環境教育の推進体制

本県では、各部局にわたり様々な環境教育事業を展開しています。その体制と主な実施内容は右のとおりです。

県の環境教育推進体制と主な実施内容

森林環境部	
森林環境総務課	○「山の日」啓発活動推進等
	○環境活動の推進
	○やまなしクリーンキャンペーンの展開
	○ごみの減量化、リサイクル等の推進
大気水質保全課	○大気・水質保全等公害防止に係る普及啓発
みどり自然課	○自然保護や緑化推進等に係る普及啓発
	○「八ヶ岳環境と文化のむら」の運営
森林整備課	○森林整備、森林・山村地域の活性化、森林災害予防の普及啓発
林業振興課	○植樹運動、林業体験等を通じた林業普及
県有林課	○「森林文化の森」の整備と利用促進
森林総合研究所	○森林・林業に関する調査・研究 ○森の教室等の実施
各林務環境事務所	○地域における環境保全活動の推進
教育庁	
義務教育課	○エネルギー教育推進事業の実施
社会教育課	○フロンティア・アドベンチャー「やまなし少年海洋道中」の実施
その他の部局	
生涯学習文化課	○やまなしまなびネットワークシステムの運営
エネルギー政策課	○省エネルギー、クリーンエネルギーの普及啓発
	○やまなしエコライフ県民運動等各種普及啓発
企業局電気課	○クリーンエネルギー学習講座等の実施
富士山科学研究所	○環境教育事業の実施 ○指導者の育成等

2 環境教育の各種施策

(1) 富士山科学研究所における環境教室等(私学・科学振興課)

富士山科学研究所の環境教育部門では、環境問題を地球規模で考え、身近なことから実践することの大切さを学習する「ふじさん自然教室」、「自然体験事業」や常設展示・企画展示など、幅広い環境教育事業を実施しています。

環境教育事業の概要(平成30年度)

事業名	H30実績	備 考
ふじさん自然教室	団体を対象として随時開催	
富士山学習支援	団体を対象として随時開催	小中学校で実施されている「富士山学習」などに講師を派遣
出張講義	団体を対象として随時開催	各種団体からの講師派遣依頼に対し研究員を講師として派遣
自然体験事業	17回(半日または1日)・73日開催	・体験活動を取り入れながら、身のまわりのものを題材とした体験事業や自然観察会を開催 ・もりのおはなしかい(8回)、親子森を楽しむ会(2回)、森のガイドウォーク(73日間)、U-15理科研究部(2回)、富士山五合目植物観察会(2回)、富士山火山観察会(2回)、秋の富士北麓自然親子観察会(1回)
富士山科学講座	6回開催	科学的なデータや知見を取り入れ、わかりやすい内容で開催
富士山自然ガイドスキルアップセミナー	4回開催	・外部講師を招き、より専門的な内容で科学的なデータや知見を取り入れ開催
シンポジウム	1回開催	テーマ:「富士北麓の森林利用と生物多様性の保全」
常設展示	富士山サイエンスラボ内に展示	研究員の監修のもと、富士山の基礎的な知見について展示
企画展示	「知りたい! 富士登山～高山病を考える～」 6/2～10/21 「噴火の歴史を調べる～テフラ研究から分かること～」 11/3～3/10	研究員の監修のもと、研究成果や研究内容に関連した展示

(2) こどもエコクラブ活動の支援(森林環境総務課)

次代を担う子どもたちが、地域において楽しく自発的に環境学習及び環境保全活動を行う「こどもエコクラブ」の活動を支援し、その内容の充実を図っています。

○県内の加入状況(平成31年3月31日現在)

・クラブ数…3 ・会員数…138人 (全国:クラブ数…1,802 会員数…101,086人)

○事業内容

・こどもエコクラブ全国フェスティバル

県内からは和泉エコクラブ(甲府市)が参加 同フェスティバルに展示する壁新聞を提出。

・こどもエコクラブ事業の広報

新規登録を促すため、イベントでのチラシの配布やホームページに掲載。

(3) 体験の機会の場の認定(森林環境総務課)

平成24年10月に施行された「環境教育等促進法」に基づく「体験の機会の場」として、公益財団法人キープ協会の施設等を平成24年12月に認定しました。全国に先駆けた第1号の認定です。

(4) 学校林の活用推進(みどり自然課)

学校週5日制の実施や総合的な学習の時間の創設に伴い、森林の教育的利用に対するニーズが高まってきている中で、児童・生徒の森林環境教育の場として学校林を活用するために必要な指導助言や情報提供を行っています。また、活動の活発化を図るため平成19年度には「森林環境教育の手引き～学校林活用

マニュアル～」を発行しました。

(5)どんぐりクラブ育成事業(みどり自然課)

小学生以下の子ども達に、山や森、公園に落ちているどんぐりを拾う活動を通じて、緑に親しみ、森林を大切にすることを育んでもらうことを目的として実施しています。また、集まったどんぐりは環境教育等への活用を図るため、県緑化園で養成し、希望した小中学校等に配付しています。

平成30年度は936人の子ども達が会員となり、集めたどんぐりの数に応じてユキヤナギとムラサキシキブを配付しました。

(6)エネルギー教育推進事業(義務教育課)

①ESD エネルギー教育体験プログラムの実施

県下の小・中学校におけるエネルギー教育を推進するため、「ESD エネルギー教育体験プログラム」を行っています。児童生徒が事前事後の学習と施設での体験から、日常生活で行うことができるエコ活動を考え、実践することで持続可能な社会づくりに向けての意識の向上を図ります。

②エネルギー教育関連教材の貸し出し

各教育事務所に学校では購入しにくいエネルギー教育関連教材を備え、貸し出しを行っています。児童生徒がエネルギーを実際につくり出す体験等を行うことにより、エネルギー問題等について理解の促進を図ります。

③ホームページの活用・更新

ホームページ「小中学生のためのやまなしの環境教育」を通じて、環境学習に関わる県内の事業や施設、環境教育・エネルギー教育の進め方や実践事例、エネルギー教育関連教材等についての情報発信を行っています。

(7)青少年長期自然体験活動(フロンティア・アドベンチャー「やまなし少年海洋道中」)(社会教育課)

物質的な豊かさに伴う便利な生活環境の中で生活している青少年に、本県には存在しない海洋における大自然の中で、野外活動生活を長期間実施することにより、青少年に心の豊かさや、たくましさを育む事業を実施しています。

実施に当たっては、美しい海洋の自然に触れることで地球環境の大切さを感じ、人と自然との共存について考える機会をつくるとともに、生活環境の異なる地域の人々との交流を進めることにより、人と人との繋がりを考える機会ともしています。

○経 緯 昭和63年度より事業を開始し、平成30年度で31回目を迎えた。

○平成30年度の実施内容

参加者	県内の中学生48名(男子28名、女子20名)		
実施日	事前説明会: 平成30年6月17日	日帰り	(ことぶき勸学院)
	事前研修会: 平成30年7月7日～8日	1泊2日	(県立愛宕山少年自然の家)
	現地研修: 平成30年7月31日～8月6日	6泊7日	(東京都八丈島八丈町垂戸) ※ 台風のため、計画を短縮して実施しました。
	事後研修会: 平成30年8月20日	日帰り	(県立八ヶ岳少年自然の家)
体験内容	・洋上体験(船での寝食、漁船クルージング、外洋の観察等) ・自然体験(キャンプ生活、スノーケリング、野外炊事、サバイバル踏破、ピバーク等) ・交流体験(八丈島の小中学生、住民の方等) ・自主企画体験(サバイバル踏破等)		

・自然環境体験(全期間での衣食住、天候、海洋及び海洋性の自然等)

(8)やまなしエコティーチャーの派遣(森林環境総務課)

地域における環境保全意識の高揚を図り、地域の環境保全活動に資するため、環境に関する知識や豊富な経験のある人材を環境学習指導者(やまなしエコティーチャー)として登録し、県内の民間団体等が主催する環境保全に関する研修会等に派遣しました。

やまなしエコティーチャー登録名簿

(平成30年10月1日現在)

分野	No.	エコティーチャー	分野	No.	エコティーチャー	分野	No.	エコティーチャー
自然環境	1	齋藤 一紀	自然環境	26	川村 悦子	生活環境	51	草野 香寿恵
	2	流石 皇甫		27	岡野 由美		52	櫻林 いさを
	3	田中 収		28	饗場 葉留果		53	佐藤 悦子
	4	中川 雄三		29	柳川 真澄		54	島崎 洋一
	5	中村 司		30	齋藤 園子		55	清水 喜美男
	6	山本 紘治		31	関根 健吾		56	中村 伯男
	7	依田 正直		32	小野 明子		57	岸 いず美
	8	跡部 治賢		33	村井 孝一		58	窪田 真弓
	9	内藤 邦雄		34	西尾 有香音		59	河野 昭三
	10	野澤 健夫		35	石川 昌稔		60	小林 敏樹
	11	堀内 美千恵	36	岩淵 真奈美	61		齋藤 尚子	
	12	山田 健一郎	自然環境・生活環境	37	宮本 克己		62	櫻田 清
	13	渡辺 尚希		38	日向 治子		63	澤登 早苗
	14	清藤 城宏		39	鳥屋尾 健		64	篠原 充
	15	関 敦隆		40	田村 のり子		65	竹井 基
	16	竜沢 信子		41	坂川 実基		66	廣瀬 隆博
	17	窪田 茂		42	増田 直広		67	森野 健治
	18	桑原 治雄	生活環境	43	芦澤 公子		68	渡辺 節子
	19	竹内 時男		44	黒田 光秀		69	伊藤 真理
	20	広瀬 和弘		45	志沢 美香		70	島田 豊
	21	宮川 広		46	鶴田 和彦		71	杉浦 修
	22	村山 力		47	藤巻 眞史		72	永井 寛子
	23	中山 孝志		48	望月 あけみ		73	長池 伸子
	24	佐藤 陽介		49	山坂 右内		74	深澤 修
	25	大久保 哲		50	石井 迪男			

平成30年度実績

No.	月・日	主催団体	テーマ	エコティーチャー	参加人数
1	5月23日	立正校成会諏沢教会	地球温暖化学習会	芦澤 公子	42
2	6月16日	イオンスタイル甲府昭和	発電体験とエコクイズ	島崎 洋一	13
3	6月19日	山梨学院大学法学部	企業の環境対策	河野 昭三	80
4	7月4日	中央市立玉穂保育園	エコ学習会	森野 健治	56
5	7月12日	木犀会	水質問題	佐藤 悦子	30
6	7月19日	中央市立田富第一保育園	エコ学習会	森野 健治	53
7	7月20日	中央市立田富第二保育園	エコ学習会	森野 健治	40
8	7月21日	イオンスタイル甲府昭和	エコクッキング体験	望月あけみ	15
9	7月26日	韭崎市中央公民館	韭崎市甘利山リトルキャンプ事業	斉藤 一紀	26
10	7月27日	中央市立田富北保育園	エコ学習会	森野 健治	44
11	8月1日	中央市立田富第三保育園	エコ学習会	森野 健治	60
12	8月2日	北新児童センター	エコ発電	島崎 洋一	30
13	8月3日	敷島保健福祉センター	ホテルなど自然保護	山田 健一郎	6
14	8月7日	中央市立豊富保育園	エコ学習会	森野 健治	32
15	8月18日	みいづ保育園	ピオトップ教室	中川 雄三	16
16	8月27日	南アルプス市立白根百田小学校	環境集会	野澤 健夫	116
17	9月20日	みかさこども園	地球温暖化学習会	森野 健治	60
18	10月5日	塩山西公民館	宇宙の話を通しての環境教育	宮川 広	41
19	10月14日	奥野田小学校	宇宙の話を通しての環境教育	宮川 広	220
20	10月17日	双葉西小学校	芋掘り体験教室	佐藤 悦子	46
21	10月25日	禾生第一小学校	エコ学習会	島崎 洋一	49
22	11月1日	石和第四保育所	地球温暖化学習会	芦澤 公子	42
23	11月3日	隼区公民館	宇宙の話を通しての環境教育	宮川 広	80
24	11月10日	峡南幼稚園	環境教育	竜沢 信子	94
25	11月13日	玉穂南小学校	エコ発電	島崎 洋一	63
26	11月25日	日野春保育園	秋の森散策とクラフトづくり	草野 香寿恵	29
27	11月26日	双葉西小学校	干し芋体験教室	佐藤 悦子	46
28	12月5日	竜王北小学校	エコ発電	島崎 洋一	66
29	12月11日	石和第一保育所	環境教室	芦澤 公子	37
30	12月12日	履いきいきサロン	エコ肩たたき棒作製	渡辺 節子	26
31	12月17日	石和第二保育所	環境教室	岸 いず美	22
32	12月17日	東桂中学校	環境学習	日向 治子	141
33	12月19日	石和東小学校	宇宙の話を通しての環境教育	宮川 広	76
34	12月20日	GRACE	ゴミ問題	永井 寛子	30
35	1月16日	塩山高等学校	宇宙の話を通しての環境教育	宮川 広	49
36	1月18日	かすがい西保育所	環境教室	跡部 治賢	48
37	1月18日	御坂菱保育所	環境教室	跡部 治賢	38
38	1月18日	御坂西小学校	宇宙の話を通しての環境教育	宮川 広	110
39	1月18日	御坂東保育所	環境教室	竜沢 信子	28
40	1月21日	日川高等学校	「国際宇宙ステーション」	宮川 広	33
41	2月5日	芦川へき地保育所	環境教室	跡部 治賢	9
42	2月7日	御坂西保育所	環境教室	岸 いず美	36
43	2月27日	八代花鳥保育所	環境教室	望月あけみ	34
44	3月16日	前開田区育成会	環境教室	跡部 治賢	13
				総数	2,225

(9) やまなし環境学習プログラムの策定(森林環境総務課)

地球温暖化対策を推進していくため、平成23年3月に太陽光発電等自然エネルギーの分野に関し、小学校中学年用・小学校高学年用・中学校用の3件のプログラムを策定しました。子どもたちがそれぞれの発達段階において、体験的活動を中心にそこから得られる自然環境や社会問題について「学び」「話し合い」「行動に移す」ことを効果的に行うことができるよう構成されている実践的な指導用手引書です。

対象	プログラム	内容
小学校中学年	「やまなしのエコ大作戦」	体験やクイズを通じ、エネルギーについて知り、エコライフ宣言をする。
小学校高学年	「二酸化炭素ゼロやまなし」	山梨県の温暖化対策の目標を知り、身近なエコの方法を川柳で表現する。
中学校	「ソーラー王国やまなし」	山梨県のエネルギー計画を知り、未来のエネルギーの使い方を考える。

5-2 人材の育成

1 富士山科学研究所の取り組み(私学・科学振興課)

山梨県富士山科学研究所では、環境問題や環境教育への理解をより一層深めることを目的に、また、将来的には地域の環境活動を推進しうる人材を養成する第一歩となるよう、環境生涯学習プラン「富士山科学カレッジ」及び「富士山科学カレッジ大学院」、「自然解説員育成研修」を開講しています。また、県内小・中・高・特別支援学校の教員を対象に、山梨県総合教育センターと共催で「学校教員研修会～体験で学ぶ火山研修会」を実施しています。平成30年度の実績は次のとおりです。

富士山科学カレッジ(受講生:11人)

種別	内容	講師	実施日
開講式	開講式・プログラムの確認	環境教育スタッフ	4/14
	基礎講座「富士山の自然」	環境教育スタッフ	4/14
必修講座	富士山科学講座1(基礎編①)	本多 亮(当研究所 研究員)	4/14
	富士山科学講座2(基礎編②)	山村靖夫(茨城大学 教授、当研究所 客員研究員)	5/12
	富士山科学講座3(基礎編③)	内山 高(当研究所 研究管理幹)	6/9
	富士山科学講座4(基礎編①)	山本真也(当研究所 研究員)	9/8
		長谷川達也(当研究所 研究管理幹)	
	富士山科学講座5(基礎編②)	中野隆志(当研究所 主幹研究員)	10/13
		藤野正也(当研究所 研究員)	
富士山科学講座6(基礎編③)	高田隼人(当研究所 研究員) 大脇 淳(当研究所 研究員)	11/10	
臨地講座 ※以下より一つ選択 ①富士山五合植物観察会 ②秋の北麓親子自然観察会 ③富士山火山観察会	松沢理子(秀明大学 非常勤嘱託) 田中厚志(文化庁 文化財調査官) 中野隆志(当研究所 主幹研究員) 安田泰輔(当研究所 主任研究員) 水越文考・渡辺信介・中川雄三(日本野鳥の会 富士山麓支部会員) 内山 高(当研究所 研究管理幹) 吉本充宏(当研究所 主任研究員) 山本真也(当研究所 研究員) 馬場 章(当研究所 研究員) 西澤文勝(当研究所 研究員)	7/21・7/26 9/29 10/11・10/14	
選択講座	以下2講座中1つ以上選択 企画展「知りたい!富士登山」 森のガイドウォーク	自然解説員(ボランティアガイド)	7/8~10/29 6/2~10/21
閉講式	修了証書授与	環境教育スタッフ	11/10

富士山科学カレッジ大学院(受講生:13人)

種別	内容	講師	実施日
開講式	開講式・プログラムの確認	環境教育スタッフ	4/14
必修講座	富士山科学講座1(基礎編①)	本多 亮(当研究所 研究員)	4/14
	富士山科学講座2(基礎編②)	山村靖夫(茨城大学 教授、当研究所 客員研究員)	5/12
	富士山科学講座3(基礎編③)	内山 高(当研究所 研究管理幹)	6/9
	富士山科学講座4(基礎編①)	山本真也(当研究所 研究員)	9/8
		長谷川達也(当研究所 研究管理幹)	
	富士山科学講座5(基礎編②)	中野隆志(当研究所 主幹研究員)	10/13
		藤野正也(当研究所 研究員)	
	富士山科学講座6(基礎編③)	高田隼人(当研究所 研究員)	11/10
		大脇 淳(当研究所 研究員)	
	臨地講座 森のガイドウォーク	自然解説員(ボランティアガイド)	4/28~10/28
研究成果発表会		2/23	
臨地講座 ※以下より一つ選択 富士山五合植物観察会 秋の北麓親子自然観察会 富士山火山観察会	松沢理子(秀明大学 非常勤嘱託) 田中厚志(文化庁 文化財調査官) 中野隆志(当研究所 主幹研究員) 安田泰輔(当研究所 主任研究員) 内山 高(当研究所 研究管理幹) 吉本充宏(当研究所 主任研究員) 本多 亮(当研究所 研究員) 馬場 章(当研究所 研究員)	7/21・7/26 9/29 10/11・10/14	
選択講座	スキルアップセミナー 1	西島 昇(気象庁甲府地方気象台 予報官) 北野芳仁(気象庁甲府地方気象台 調査官) 平松新一(石川県白山自然保護センター 専門研究員) 小池伸介(東京農工大学 准教授) 川南 結(洞爺湖火山マイスター)	12/8
	スキルアップセミナー 2		1/12
	※4回開催されるスキルアップセミナーのうち2つを選択		2/9
			3/9
閉講式	修了証書授与	環境教育スタッフ	3/9

自然解説員育成研修(受講生:7名)

種別	内容	講師	実施日
開講式	説明会・育成研修の確認	環境教育スタッフ	4/7
基礎講座 1	インタープリテーション概論	環境教育スタッフ	4/7
演習講座 1	10分プログラムの作成	環境教育スタッフ	6/9
演習講座 2	10分プログラムの実施	環境教育スタッフ	7/22
演習講座 3	50分プログラムの作成	環境教育スタッフ	8/18
演習講座 4	50分プログラムの実施 (1)	環境教育スタッフ	9/22
演習講座 5	50分プログラムの実施 (2)	環境教育スタッフ、自然解説員(ボランティアガイド)	10/20または10/28
臨地講座 1	森のガイドウォークへの参加 (春季 1)	自然解説員(ボランティアガイド)	4/28~5/27
臨地講座 2	森のガイドウォークへの参加 (春季 2)	自然解説員(ボランティアガイド)	4/28~5/27
臨地講座 3	森のガイドウォークへの参加 (夏季)	自然解説員(ボランティアガイド)	7/8~8/26
臨地講座 4	森のガイドウォークへの参加 (秋季)	自然解説員(ボランティアガイド)	9/2~10/15
閉講式	修了証書授与	環境教育スタッフ	11/10

学校教員研修会～体験で学ぶ火山研修会(受講者11名)

種別	内容	講師	実施日
火山学講義	火山学に関する講義	高田 亮(国立研究開発法人産業技術総合研究所 契約研究員) 藤井敏嗣(当研究所 所長) 内山 高(当研究所 研究管理幹) 吉本充宏(当研究所 主任研究員) 山本真也(当研究所 研究員) 本多 亮(当研究所 研究員) 馬場 章(当研究所 研究員) 西澤文勝(当研究所 研究員)	8/8
鉱物の観察	火山舎に含まれる鉱物の観察		
グループディスカッション	火山についてのグループ討論		
野外巡検	富士山周辺の野外にて富士山の火山活動に関する巡検		8/9

2 森林総合研究所における研修(森林環境総務課)

林業従事者や後継者、また将来の担い手となる者を対象に技術研修を行い、地域林業や森林・林業教育の中核的指導者となるよう人材養成を行っています。平成30年度の実績は次のとおりです。

(1) 専門研修(対象: 県、市町村及び森林組合職員 ほか)

研修教科	研修名及び内容	実施日	受講者数
森林計画	森林GISの効率的な活用に必要な基礎知識	H31.2.22	6
〃	UAVを用いた架線リードロープの設置技術	H30.11.16	14
〃	市町村森林整備計画及び森林経営計画の基礎知識	H30.11.1	19
作業路網	林内路網の基礎知識	H30.9.26	9
〃	森林作業道の計画・施工	H30.9.28	6
〃	ICT等を活用できる路網作設高度技能者育成研修	H31.2.20,31.3.4,31.3.5	11
森林土木	保安林・林地開発制度の概要	H30.7.3	10
〃	森林土木測量入門	H30.6.25,30.6.26	5
〃	法面緑化基礎研修	H31.1.10	3
〃	公共土木施設点検のポイント	H31.1.18~H31.2.5	12
普及指導	森林施業プランナー研修	H30.8.23	7
労働安全	労働災害の防止対策	H30.8.17	8
〃	技術職員の安全管理 (現場で被災しないために)	H30.8.30	14
森林経営	森林経営の基礎知識	H30.12.5	13
育林・育種	森林施業技術の基礎知識	H30.10.3	7
〃	カラマツコンテナ 苗の特徴及びその植栽と管理	H31.3.12	24
森林保護	ナラ枯れ被害の実態と対策	H30.11.30	26
〃	山梨県野生鳥獣保護管理事業計画と獣害対策の基礎知識	H30.11.6	6
環境保全	森林の多面的機能の基礎知識	H31.1.10	3
〃	県有林の適切な森林管理において求められるもの (FSC関連研修)	H30.6.20	70
特用林産	特用林産の基礎知識とごこ栽培実習	H31.3.15	22
木材加工・流通	県産材利用に関する基礎知識	H30.11.14	7
〃	木材の活用方法と木造建築の基礎知識 ー木材の用途と品質ー	H30.10.31	4
経営・機械	林業架線免許講習	H30.6.5~H30.7.12	7
〃	「架線系集材技術の基礎」(機械集材装置の運転に係る特別教育)*	H30.6.25,H30.6.26	3
〃	「林業安全作業指導Ⅰ」 (チェーンソー&刈払機の取扱いに係る特別及び安全衛生教育)	H30.5.23,H30.5.24,H30.5.29	25
〃	「林業安全作業指導Ⅱ」 (チェーンソー&刈払機の取扱いに係る特別及び安全衛生教育)	H31.2.20,H31.2.21,H31.2.26	20
計			361

※ 技能者養成研修と同時開催の専門研修の場合は、受講者数はそれぞれに分割してあります。

(2) 基礎研修(対象: 一般県民、教職員 ほか)

研修名	内容	実施日	受講者数
「教員指導者養成研修」(身近な自然の指導法研修会)	「森林・林業の基礎知識」 「森林と人との関わり方」 ・間伐体験 ・間伐木の樹皮を利用した工作	H30.8.8	7
「教員指導者養成研修」(環境とものづくり研修会)	「森林・林業・木材の基礎知識」 「木工作入門」 ・木材の性質について ・木工作道具の使用方法 ・製作技法の基礎知識	H30.8.10	7
計			14

※ 教員指導者養成研修は、総合教育センター及び(公財)山梨県緑化推進機構との共催。

(3) 技能者養成研修(対象: 林業従事者)

研修教科	内 容	実 施 日	受講者数
林業機械	「機械集材装置の運転の業務に係る特別教育」(2年目)	H30.6.28,29	13
森林調査	GPS測量の方法(2年目)	H30.7.19	13
現場管理	車両系高性能林業機械のメンテナンス 架線系高性能林業機械のメンテナンス 機械類の管理手法(3年目)	H30.7.25,26	10
森林整備	森林施業の体系 森林整備の省力化・低コスト化作業(3年目)	H30.7.31,8.22	10
素材生産	効率的な高性能林業機械の使い方 高性能林業機械操作の検証(3年目)	H30.8.22~24	10
現場管理	道具・資材のメンテナンス(2年目)	H30.9.4~6	10
現場管理	刈払機のメンテナンス チェーンソーのメンテナンス(2年目)	H30.9.11	13
路網開設	路網の種類と目的(3年目) 安全な路網開設・維持作業	H30.9.13	13
素材生産	木材流通と木材利用 木材の特性 安全な素材生産作業の確認(3年目)	H30.9.19~21	10
森林整備	安全なかり木等処理作業(3年目)	H30.10.11,12	10
計			112

5-3 環境に関する活動の展開

1 参加と連携による環境活動(森林環境総務課)

環境の保全と創造を図るためには、私たち一人ひとりが人間と環境との関わりについての理解と認識を深めるとともに、県民・事業者・民間団体・行政等がそれぞれの主体の特性を活かし、互いに補完しながら、連携して取り組むことが必要です。

県では、「やまなし環境月間」や「環境フォーラムinやまなし」の開催などを通じて、県民の環境保全への意識の高揚を図っているほか、環境保全実践活動の展開を支援・促進するため、「環境保全活動支援事業費補助金」(平成19年度～)により、市町村(一部事務組合も含む)やNPO法人などの公共的団体などが実施する環境保全事業に対して補助を行うとともに、地域の民間団体等が開催する環境問題に関する講演会や学習会等に対して講師を派遣する「環境学習指導者派遣事業(やまなしエコティーチャー)」(平成21年度～、平成7年度から平成20年度までは「環境アドバイザー派遣事業」)を実施し、地域の環境保全活動を支援しています。さらに、これらの活動が日常生活の中に定着していくことを目的として、環境美化活動に取り組む一斉活動日を設け、やまなしクリーンキャンペーン(平成8年度～)を提唱、実施しています。

(1)平成30年度環境保全活動支援事業費補助金(森林環境総務課)

交付先市町村名	事業内容
甲府市	太陽エネルギー体験教室
	KidsISO14000プログラム
	保育所・幼稚園における環境教育事業
	環境教育プログラムの実施
	環境副読本の作成
	緑のカーテン
韭崎市	環境講座の開催
	リサイクル探検隊の開催
	KidsISO14000プログラム
	緑のカーテン設置事業
	資源物回収活動
南アルプス市	わくわくエコチャレンジ事業
	自然エネルギー導入事業
	中部資源回収センターの整備

交付先市町村名	事業内容
昭和町	環境に関するイベントの開催
	環境副読本の作成
山梨市	KidsISO14000プログラム
富士川町	リサイクルステーションの整備
	食品残渣堆肥化处理
身延町	「緑のカーテン」を活用した環境講習会等の開催
都留市	水路除塵機設置
大月市	地域美化活動の推進
富士河口湖町	リサイクルステーションの整備

(2)やまなしクリーンキャンペーン(森林環境総務課)

県では平成8年度から、子供から高齢者まで県民参加による環境美化のための一斉活動日を提唱し、私たちが日頃から慣れ親しみ愛着のある身近な環境での全県一斉クリーンキャンペーンを展開しています。

平成30年度は、一斉活動を年6回実施しました(5月30日、7月30日、9月30日、11月30日、1月30日、3月30日)。

(3)やまなし環境月間(5月30日～6月30日)における取り組み(森林環境総務課)

環境基本法においても定められた「環境の日(6月5日)」を中心として、環境美化の日(5月30日、ゴミゼロの日)から6月末までを「やまなし環境月間」とし、環境保全に向けた各種行事を実施しています。

平成30年度環境月間行事

行事名	概要	主催
やまなしクリーンキャンペーン	子供から高齢者まで県民が参加して、日頃から慣れ親しんでいる身近な場所の環境美化に取り組む一斉活動を行った。	山梨県、市町村
ごみ減量・リサイクル推進キャンペーン	県内主要地域において啓発物品を配布し、ごみの減量とリサイクルの推進を呼びかけた。	山梨県、市町村
環境フォーラム in やまなし	やまなし環境月間の中心行事として実施。環境問題を楽しく学ぶため、ミヤモ氏を招き「エコマジックショー」による記念講演を行った。また、山梨県環境保全功績者表彰として、環境保全に関する県民等の意識の啓発、高揚を図るため、地域の環境保全に顕著な功績のあった者を知事表彰した。	山梨県
環境情報コーナー	一般県民が多く利用する公共施設等において、環境に関する資料・パネル等を展示し、環境問題への意識啓発を図った。	山梨県
環境保全のための新聞広告掲載	環境保全の意識啓発を図るため、新聞広告を掲載した。	山梨県
新聞・広報誌等による広報	新聞・広報誌等により、環境保全・美化運動への参加を呼びかけた。	山梨県

(4)「やまなし森づくりミッション」の支援(みどり自然課)

企業や団体、県民参加の森づくりを推進するため、こうした森づくりの活動をサポートする組織として、平成19年8月に県と森林・林業、環境関係の24団体により設立された、「やまなし森づくりミッション」への支援を行いました。(ミッション事務局は、(公財)山梨県緑化推進機構)

○森づくり活動の支援

・企業・団体の森づくりの推進: 森林整備協定の締結、森づくり活動への参加に関する相談、活動資材の提供、森づくりに関する講師の派遣、森づくりイベントの紹介、森づくり活動の企画・立案への協力ほか

○ホームページURL:

<http://www.y-forest-commission.jp/>

「山梨県庁のホームページ」→「組織から探す」→「森林環境部」→「みどり自然課」→「やまなし森づくりコミッション」



(5) CO₂吸収認証制度(みどり自然課)

地球温暖化防止や水資源の涵養^{かん}など、森林の多面的な役割に対する県民の関心や、企業・団体の社会貢献活動としての森づくり活動に対する関心が高まっています。県では、企業・団体の森づくりへの参加促進と、より多くの県民が森づくり活動の効果に関心を持つ契機とするため、県内で森づくり活動を行う企業、団体の森づくり活動によるCO₂吸収量を認証する「やまなしの森づくり・CO₂吸収認証制度」を推進しています(平成30年度CO₂吸収認証: 14件、96.4t-CO₂/年)。

※t-CO₂(二酸化炭素トン) : 二酸化炭素の重さで、1t分の二酸化炭素(t-CO₂)は、体積にすると546m³、25mプール1杯分に相当。

(6) やまなし土木施設環境ボランティアの推進(道路管理課・治水課・都市計画課)

やまなし土木施設環境ボランティア推進事業は、自治会、老人クラブ、商店会、住民の有志等地域住民団体並びに企業、学校等及びその従業員、児童生徒等の団体の代表者が、公共施設を所管する建設事務所長に環境ボランティア届けを提出、県及び市町村との三者で合意書を取り交わし、県が管理している道路、河川、公園施設の清掃、除雪、除草、草花の植栽等の美化活動をする制度です。

県では、この事業を支援するため、美化活動に必要なカンナ、鍬、ゴミ袋等の清掃用具、安全確保のための簡易バリアード等を支給するほか、活動中の事故に備えてボランティア保険に加入します。平成15年9月より募集を開始し、平成15年度末で16団体であった合意団体は、平成30年度末で103団体となっており、土木施設の維持管理及び地域の環境に対する住民意識の高揚を図り、快適なまちづくりを推進しています。

(7) 山梨県環境保全基金(森林環境総務課)

県民、事業者等に対する環境の保全に関する知識の普及、実践活動の支援、地域に根ざした環境保全活動を推進することにより、県土の環境の保全を図るため、平成2年3月27日に「山梨県環境保全基金条例(以下「基金条例」という。))を公布・施行し、基金条例に基づく山梨県環境保全基金(以下「基金」という。))を設置しました。

①基金の額

平成元年度に国の地域環境保全対策費補助金及び地方交付税交付金による財源措置を各2億円受け4億円とし、平成3年度には県が4億円を増額、平成30年度末現在約8億900万円となっています。

②基金運用益の処理

基金の運用から生ずる収益は、毎年度の歳入歳出予算に計上し、基金の設置の目的を達成するために必要な経費の財源に充て、平成30年度は運用益約685万円を活用し、次の事業を実施しました。

- | |
|---|
| ア やまなし環境月間
環境月間及び環境の日の新聞広告掲出及び環境フォーラムの実施等 |
| イ 環境保全活動支援事業費補助金
市町村等が実施する環境の保全と創造に関する事業に対する補助 |

5-4 協働取組の促進

1 県民・事業者・行政のパートナーシップの構築

(1) 環境パートナーシップやまなし(森林環境総務課)

①目的・概要

環境保全のための活動は、個人から各種団体まで規模や活動内容が多様化しており、団体間の連携や情報交換の場づくりが求められています。そこで、県民・事業者・行政のパートナーシップ(協働)のもと、自主的な環境保全活動を積極的に展開していくことを目的とし、平成9年6月5日、環境パートナーシップやまなし(会長:坂本 政彦 (一社)山梨県トラック協会会長)が設立されました。

②事業内容

- 活動情報の交換及びネットワークづくりのための事業
 - ・広報誌の発行(年4回)
- 3R推進・温暖化対策のための事業
 - ・「エコライフお絵かき・川柳コンテスト2018」の実施
 - ・「やまなし環境活動推進ネットワークフォーラム」の開催
 - ・県民の日記念行事への出展
- 県事業との協働
 - ・やまなしクリーンキャンペーンの共催など

(2) 山梨県ノーレジ袋推進連絡協議会(エネルギー政策課)

①目的・概要

レジ袋を削減するための方策やレジ袋削減についての意識啓発等を行うため、事業者、消費者団体、行政等を構成メンバーとして、平成19年8月31日に山梨県ノーレジ袋推進連絡協議会(会長:金子栄廣 山梨大学教授)が設立されました。

②事業内容

平成20年度から、レジ袋の無料配布を中止することにより、レジ袋を削減する運動を実施しています。この運動を推進するため、事業者、消費者団体、商工団体、山梨県及び市町村と「山梨県におけるマイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定」を締結しています。

・マイバッグ持参率とレジ袋の削減効果(平成20年7月～平成31年3月)

マイバッグ持参率	86.5%	レジ袋削減重量	10,028トン
レジ袋辞退者	60,926万人	原油削減量	18,670KL
レジ袋辞退枚数	85,526万枚	二酸化炭素削減量	46,206トン

・平成20年6月10日 第1回協定締結 18事業者 107店舗

株式会社アマノ	生活協同組合パルシステム山梨	株式会社深澤商事
株式会社いちやまmart	巨摩野農業協同組合	株式会社富士急百貨店
株式会社イトーヨーカ堂	株式会社さえき	マックスバリュ東海株式会社
株式会社オギノ	生活協同組合ユーコープ (生活協同組合市民生協やまなし)	株式会社山交百貨店
株式会社かわすみ	株式会社セルバ	株式会社やまと
株式会社公正屋	株式会社日向	ユニー株式会社

・平成20年11月6日 第2回協定締結 8事業者 10店舗

株式会社グルメンティ関東	株式会社トライアルカンパニー	山梨県立大学生活協同組合
有限会社スーパーかわぐち	株式会社ひまわり市場	山梨大学生活協同組合
株式会社ダイエー	企業組合ワーカーズコレクティブパクぱく	

・平成21年5月26日 第3回協定締結 11事業者 1組合 347店舗

株式会社マルシンストアー	有限会社サンクリーニング	株式会社クリーニングすわん
双葉農の駅企業組合	株式会社オスカー	株式会社ホワイト急便山梨
梨北農業協同組合	有限会社鈴屋リネンサプライ	山梨県クリーニング生活衛生同業組合
ふじかわ農業協同組合	株式会社クリーニング志村	株式会社ヨンマルサン

・平成22年9月1日 第4回協定締結 1事業者 1店舗

株式会社ベイシア

・平成23年2月27日 第5回協定締結 1事業者 1店舗

イオンリテール株式会社

・平成23年6月7日 第6回協定締結 2事業者 2店舗

株式会社白根

株式会社有機村

・平成28年2月12日 第7回協定締結 1事業者 1店舗

株式会社バローホールディングス

・平成28年6月3日 第8回協定締結 1事業者 1店舗

イオンリテールストア株式会社

(3)環境に関する企業連絡協議会(森林環境総務課)

「企業の抱える環境問題」を解決するため、県内の企業149社(平成31年3月現在)で構成している環境に関する企業連絡協議会(平成30年度会長:繁尾 明彦 東日本電信電話(株) 山梨支店支店長)では、次の活動を行っています。

- ・環境に関する啓発活動の実施、各種取り組みへの参加
- ・各種環境研修会の開催

- ・環境美化活動の実施
- ・他の環境団体との連携

2 民間団体の環境保全活動への支援(森林環境総務課)

(1)公益財団法人やまなし環境財団

「やまなし環境財団」は、山梨県が民間の篤志家からの寄付をもとに、環境保全に向けた県民の意識の醸成を図るとともに、民間団体の自発的な環境保全への取り組みを支援することを目的に設立したものです。

①財団の概要

- ・設立年月日 平成9年11月20日
- ・基本財産 4億8,279万244円(平成31年3月31日現在)
- ・所在地 甲府市丸の内1-6-1(森林環境総務課内)
- ・理事長 井出 仁(森林環境部長)

②財団の事業内容(平成10年度から実施)

ア 環境保全活動支援助成事業

県内で環境保全活動をしている民間団体等が行う実践活動、普及啓発活動、調査・研究活動などに助成する。

(助成内容)

- スタートアップ助成:新たに開始又は開始後3年未満の団体の活動(助成率10/10以内で20万円を限度)
- ステップアップ助成:環境保全活動を開始後3年以上行っている団体等の活動に対して助成
 - ・助成率1/2以内で50万円を限度(助成期間10年間を限度)
 - ・助成率1/2以内で15万円を限度(助成期間11年目から3年間を限度)

実績:平成30年度:スタートアップ助成2団体、ステップアップ助成19団体 3,756,000円を助成

イ 「若宮賞」表彰事業

優れた環境保全活動を行っている個人、団体を表彰(本財団の設立に御協力いただいた方の名前を記念し「若宮賞」としている)。

表彰対象: 概ね2~3年以上継続して行っている環境保全に関する実践活動で、清掃美化、ごみ減量化・リサイクル、大気・水質浄化、環境教育等に関する活動を対象。

(平成30年度 該当なし)

ウ やまなし環境活動推進ネットワークフォーラムの開催

環境保全活動に取り組む民間団体等に交流の場を提供し、環境パートナーシップやまなしとの共催で、参加者の相互理解とネットワークの形成を目的に開催。

実績:平成30年度 平成31年3月9日 ぴゅあ総合(男女共同参画推進センター)で開催

エ 情報提供事業

財団の事業や活動団体の紹介、県や活動団体等から寄せられた情報等を掲載するホームページを作成し情報発信するとともに、メールによる情報提供を行う。

オ 温暖化防止対策支援事業

山梨県地球温暖化防止活動推進センターに事業を委託し、実効性の高い効果的な地球温暖化防止対策の普及啓発や環境教育を実施する(委託事業内容:温暖化防止の相談窓口設置業務、温暖化防止教室開催業務、情報発信業務)。

3 桂川・相模川流域環境の保全(森林環境総務課、富士・東部林務環境事務所)

相模川は、その源流を山中湖に発し、山梨県内では桂川と呼ばれ、神奈川県に入ってから相模川と名前を変え、相模ダム(相模湖)、城山ダム(津久井湖)を経て、平塚市で相模湾に注ぐ全長113kmの一級河川です。両県の県民に過去から現在まで多くの恵みを与え続けている桂川・相模川の流域環境を、将来の世代にかけがえのない資産として引き継いでいくため、上流部の山梨県と下流部の神奈川県が流域に与えている環境負荷や、その改善のために果たすべき役割を認識したうえで、県域を越えて、流域の市町村、住民、企業等と一体となって、流域環境の保全に取り組むことを目的に、平成7年9月から両県の共同事業として「桂川・相模川流域環境保全推進事業」を開始しました。

この事業では、平成9年度までの3か年に、問題提起と合意形成を図るための流域シンポジウムや流域サミットを開催するとともに、流域の住民や市民団体・事業者・市町村等と一体となったクリーンキャンペーン、住民参加型環境調査、パートナーシップ交流等を実施し、併せて流域の全体像を把握するための流域環境基礎調査や流域環境の保全に関する住民意識調査を実施しました。

これらの事業成果を踏まえ、事業の最終年度となる平成9年度には、流域全体の環境保全のための推進母体として、流域の市町村や市民団体、企業等で構成する流域協議会を設置(平成10年1月20日)し、平成10年1月31日行動計画となる「アジェンダ21桂川・相模川」を策定しました。平成10年度からは、この流域協議会として活動を進めています。平成30年度の主な事業の実施状況は次のとおりです。

(1)クリーンキャンペーンの実施

流域で行われるクリーンキャンペーンの情報を集め、広く県民等に周知することにより環境保全活動への参加を促すとともに、簡易水質検査や水生生物調査等を行い、水質保全をはじめとする流域環境保全の重要性について啓発を行った。

- ・実施箇所 山中湖から相模川河口までの34か所
- ・参加人数 36,160人
- ・実施内容 ごみ清掃、簡易水質調査、水生生物調査等

(2)流域シンポジウムの開催

「ウナギが棲める相模川を目指して ～相模川からウナギがいなくなる日がくる?～」をテーマに、ユニコムプラザさがみはら(相模原市)において開催。北里大学海洋生命科学部の吉永龍起准教授による「うなぎのふしぎ」、神奈川県水産技術センターの勝呂尚之専門研究員による「相模川に生きる魚たち」という2つの基調講演が行われた。その後、相模川河川整備計画についての国土交通省京浜河川事務所担当者や流域協議会メンバーとの対談や関係団体からの事例発表が行われた。

- ・開催日 平成30年9月24日(月)
- ・開催場所 ユニコムプラザさがみはら(神奈川県相模原市)
- ・参加者 約120人
- ・内容 (基調講演①)北里大学海洋生命科学部准教授 吉永 龍起 氏
「うなぎのふしぎ」
(基調講演②)神奈川県水産技術センター専門研究員 勝呂 尚之 氏
「相模川に生きる魚たち」
(事例発表)「ウナギの棲む川づくり」
NPO法人暮らし・つながる森里川海 理事長 臼井 勝之 氏
いはらの川再生PJ会 伏見 直基 氏
「Yama・P 海なし県の“山梨”から海ゴミを考える」

山梨マイクロプラスチック削減プロジェクト 日向 治子 氏
「カワラノギクの保全」

光明学園相模原高等学校理科学研究部
(パネル展示)・いであ株式会社
・相模川湘南地域協議会
・いはらの川再生PJ会
・山梨マイクロプラスチック削減プロジェクト
・山梨県
・神奈川県

(3) 環境調査事業の実施

ア 身近な水環境の一斉調査

第15回「身近な水環境の全国一斉調査」に参加した。一斉調査日である6月3日を中心に、流域内外の134地点で調査を実施し、結果をとりまとめた。

イ 地下水・湧水調査

富士北麓地域(富士吉田市、富士河口湖町、山中湖村、忍野村、西桂町)の地下水のミネラルウォーター製造への利用状況等について調査を実施した。